

**ご意見・ご質問コーナーに寄せられたご意見ご質問
(期間：平成24年9月6日～平成24年9月19日)**

再処理工場の稼働について

○年 齢 : 51歳～55歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 自営業

○都道府県名: 東京都

○ご質問の内容:

六ヶ所再処理工場の現状と今後の見通しについてを見ると

<http://www.aec.go.jp/jicst/NC/tyoki/sakutei/siryu/sakutei4/siryu2-2.pdf>

化学試験、ウラン試験からかなりの年数がたっています。その間にこの工程はメンテナンスされているのでしょうか？ 長い間プラントを動かしていない場合は、きちんと動作のメンテナンスをしていないと、稼働が難しいのではないのでしょうか？

原子力発電の利用割合について

○年 齢 : 41歳～45歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 会社員

○都道府県名 : 兵庫県

○ご意見の内容:

現在の世論の動向が脱原発依存の方向に向っていることについて、私も原発の依存割合を下げる方向に異論はありません。ただ、原発ゼロという方向には異論があります。化石燃料は有限である以上、100年200年という長期的視野に立った場合、やはり化石燃料以外の発電方法として原子力発電は必要になってくると考えるからです。また、高速増殖炉もんじゅについても、技術的に明らかに不可能でない限りは研究を継続すべきと考えます。CO₂排出抑制による温暖化防止の観点からも原子力発電は必要と考えますが、現在停止中の原発の再稼働の可否については、地震による津波によって全ての電力がおちないようにする対策、落ちたとしても冷却できるシステムの構築など、徹底的な安全対策をとった上での再稼働の慎重な判断を国民は求めていると思います。

原子力規制委員会人事

○年 齢 : 31歳～35歳

○性 別 : 女性

○職 業 : 会社員

○都道府県名: 京都府

○ご意見の内容:

国会同意を経ていないことで委員長らの判断のクレディビリティ(信頼性)に大きな疑問符が投げかけられる。組織の正統性が揺らげば、規制委の仕事にも影を落とす。このように正統ではない方法で選出された委員に正統な発言権や決定権はなく、組織そのものが正統ではないことは明らか。

原子力発電所の安全上の想定自然災害規模

○年 齢 : 71歳～75歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名:大阪府

○ご質問の内容:

自然の脅威に対して、(1)自然の脅威としてはどのようなものを想定しているのか？地震・雷・津波・台風時風圧・雨量・・・隕石の直撃等等？(2)安全性を確保する前提としての、それら自然脅威の規模・大きさ、は？。

地球自体が空間に浮いており、さらに大陸は海に浮いています。特に日本国は島国です。私は人生に「安全」なんてあるのかしら？「安全」てな
あに、なんて考えてしまいます。

安全で大事なことは、時々脅威を想定して、万が一の手立てを講じることだと思います。想定以外の、また以上の脅威に対しては、命があれば、また対策する他どうにもなりません。

以上のように考えている私ですが、原発に関して、福島被災以前、国は、専門の方々は、前記(1)(2)をどのように定め、これからはどのような基準にするのでしょうかお教え下さい。

皆で論じるのは、前記(1)(2)の妥当性ではないでしょうか？ 以
上

津波が放水路を逆流した(事故再考3)その1

○年 齢 : 56歳～60歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名: 滋賀県

○ご意見の内容:

国会事故調報告書の参考資料に津波襲来時の未公開写真が 11 枚掲載された。その後の 2012 年7月9日に、東電は、2012 年7月9日にそれらを含む 33 枚の写真を公開した。これらは、4号機の南にある廃棄物集中処理建屋4階の北西端に近い位置から撮影されたものである。第一原発主要施設群の南端地区から北東方向を写している。画面左側には大きな 4 号機タービン建屋が北側の海を遮っている。なお、2011 年5月 19日に東電が公表した 11 枚の写真(110519_1_x)も、同一カメラによる一連の映像の一部と考えられる。

これらは、数少ない第一原発の津波写真の中でも、最も重要な映像である。注目されるのはファイル名 120709_11.jpg だ。これは第2波が岸壁に激突し、大きな水柱が上がった瞬間の映像とされてきた。一連の写真を注意深く観察すると、より正確には壁波を成すフロント部分であり、第2波のピークはその 1 分半後に到達する。撮影時刻は 15 時 42 分 20 秒だが、カメラの時計が 7 分進んでおり、実際は 15 時 35 分 20 秒と推定される。

津波が放水路を逆流した(事故再考3)その2

○年 齢 : 56歳～60歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名 : 滋賀県

○ご意見の内容:

120709_11.jpg の画面中央左手、4号機タービン建屋右端のすぐ右に、濃い茶色の水柱が画面上端までほぼ垂直に噴きあがっている。高さは30m以上と見積もられる。よく見ると、それより右の画面中央部に、薄い灰色の水しぶきが立っているのが分る。こちらは向こう側の風景が透けて見えている。この薄い灰色の水柱は防波堤の外(南側)の岸壁に津波が直接激突して生じたものだ。しかし、茶色い水柱は違う。

茶色い水柱の手前に切妻屋根の建物が見える。屋根は灰色。茶色い水柱はそのすぐ向こう側(北側)からほぼ垂直に噴き上げており、4秒後に撮影された次の写真(120709_12.jpg)では落ちてきた水が降り注ぎ、屋根が茶色く見えている。この建物の名称と用途は不明だが、四角い箱のような建物が多い中、切妻屋根を見間違えることはない。この建物は、1～3号機の放水口のすぐ北に位置し、暗渠となっている放水路の上に建っている。大きさは推定14m×9m、高さ5m程度。東側の岸壁からはかなりの距離があり、茶色の水柱が岸壁に激突して跳ね上がったものでないことは明らかである。

津波が放水路を逆流した(事故再考3)その3

○年 齢 : 56歳～60歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名: 滋賀県

○ご意見の内容:

放水路は、海に放出する水の勢いを弱めるために、放水口の手前からラツパ状に開いている。その開き始める辺りから真上に噴出していると見られる。津波後の衛星や航空写真を見ると、切妻屋根の建物のすぐ北東側に、東西に伸びた長方形の穴(推定 3m×1.5m)が東西に2つ並んで見える。また、その西北西にも 2m×2m 程度の正方形の穴、その北西に 2m×3m 程度の南北に伸びた長方形の穴がある。これらは、3・4号機爆発以前の3月12日の衛星写真にも写っているので、爆発の影響で開いたものではない。津波が放水路を逆流して、ラツパの開きはじめる部分の圧力が爆発的に上昇し、暗渠を覆う土砂を吹き飛ばしながら噴き上げたと考えられる。茶色いのは土砂の色と思われる。津波に巻き上げられた海底の砂や泥は灰色であり、茶色ではない。

放水路を逆流した津波は、タービン建屋に直行し、猛烈な勢いで地階に噴出したと考えられる。配管内の圧力は瞬時に伝達され、タービン建屋で放水管が破裂したと想像される。またはピットを逆走した水が管と建屋の壁の隙間から噴出した可能性もある。

津波が放水路を逆流した(事故再考3)その4

○年 齢 : 56歳～60歳

○性 別 : 男性

○職 業 : 無職

○都道府県名 : 滋賀県

○ご意見の内容:

各タービン建屋地階には今でも汚染水が溜まっているために未調査のまま。そのためか、どの事故調も放水路からの津波浸入を検討せず、地上階からの浸入ばかりを調査・考察している。他の電力会社の津波対策では、放水路の逆流が検討されており、第一原発の事故調査において、なぜこれが検討されなかったのか理解できない。

これまで記述したのは1～3号機の放水口に関わるものだが、その南西に独立して設置されている4号機の放水口も、同様に津波の直撃を受けたと考えられる。4号機放水口の北西、逆洗弁ピット南部の東隣に穴が開いている。やはり、津波が放水路を逆流して押し上げたと思われる。4号機タービン建屋地階では、2人の若い東電職員が殉職された。報道によると、死因は多発性外傷による出血性ショック死であり、溺死ではない。東電の中間報告(個別項目「社員殉職の経緯」)でも、津波の浸入経路の一つとして、放水口が挙げられている。一階から流入したものは水勢が弱められると思われる。放水路を逆流した水が、最も早く、最も勢いよくタービン建屋地階に到達したであろう。